

地域研修事業

経済学部で力を入れている地域研修事業では、ゼミナールを単位として、指導教員とともに学生たちが実際に地域を訪問し、地域の諸課題に向き合い、解決策を考えることが行われている。

これまでの実践をふまえても、う少し具体的にいえば、地域の産業振興や中小企業振興、介護など地域福祉の充実、深刻な失業問題に対する地域の雇用づくりなどを具体的にどう実現していくか、あるいは、これらの諸課題の解決を容易には許さない自治体の財政難をどう克服するのか、など多岐にわたるテーマに取り組んできた。訪問先も、札幌や地方都市など条件の比較的に

いところから、過疎地や旧産炭地など条件の厳しいところまでさまざまである。まちづくりのヒントを求め、道外にまで足を運んだゼミもある。

課題に向き合い解決策を探る

文字通り、解決を迫られている地域の諸課題について、関係者のご厚意に支えられながら、調べあげ、ささやかではあれ一定の成果をまとめて発表する「調査報告書」などのかたちでもって、訪問先に還元するゼミも増えているという一連の作業は、ともすれば、大学入学後は目標を見失いがちな学生にとって、学びの刺激や動機付けとなっていることは、この事業に参加している教員



12月3日に行われた地域研修報告会

の誰もが感じていることである。また、例えば企業誘致などの「回答」が、地域経済の疲弊に対してよく提案されがちだが、そうした選択の余地さえ残されていないような厳しい実態を目の当たりにすることで、真剣な考察を迫られ、学生たちは成長する。自らの進路を考える上でも、学生たちにひろく参加を呼びかけたい事業である。

(経済学部准教授 川村雅則)